



758
7

七月三十日刊行ウキクロー、メイール摘譯

サー、ハリ、パークス氏及ヒサー、イドソルド、リ
ード氏

サー、ハリ、パークス氏ハ其論敵ノ投出セル舌鋒ニ當
ラント欲レ遂ニ壇上ニ立テ交相會セシテ望メリ是
ニ於テ予輩陰ニ恐ル氏ノ自ラ虎兇ニ陥ルヲ蓋シ口ヲ
噤スルノ或ハ千金ヲ得ルニ勝ルテアリ即チ「サー、イド
ソルド、リード」氏ノ其著書ニ就イテ下院ノ議ヲ惹キ起
サント欲スル此際ニ方テ黙止スルカ如キ是レナリ此
際ニ於テ「サー、ハリ、パークス」氏ハ「予輩放言ノ自由
ヲ得」實ニ審判ヲ仰クヘキ位置ニ投セリ則チ氏ノ一
己ノ利害并ニ公役ノ得失ニ干スル弊列審判ヲ免ル、

大正十一年四月
侯爵邸寄附



ハ極メテ難シトナス所ナリ氏曾テ自ラ審判ヲ請求セ
ス之ヲ該當ノ官ニ委シ去ラハ却テ氏ノ為ノ利ナリシ
ニ庶幾シ曩ニサ、イドワルド、リード氏曾テ公然此件
ヲ以テ巴里門ノ一問題トナサント欲スト曰フニ及ン
テサ、バ、ーク、ハ、氏自ラ進ンテ之カ衝ニ當レリ是レ目
ラ已ヲ傷クニ異ナラス氏ノ好友タルモノ切ニ悲嘆ス
ルハ亦タ宜ナラスヤ

更ニ眼ヲ轉シテサ、リード氏ヲ見ルニ氏ハ亦ク此公
役ニ属スル一人ノ不良ヲ誹議センカ為ノ無慮半年以
上自ラ苦思堪忍セシハ公使ノ曩キニ「タイムズ」記者ニ
贈レル一書ニ照セハ即チ明ナリ斯ク氏ノ速ニ之カ處
置ヲナシ巴里門ニ訴ヘサリシハ其被告ノ答辯ニ因ム
答辯スヘカラサルニアラサレハニ至ルヲ候ツノ意ナ

リシヤ氏ノ所為ニ由テ之ヲ推摩スルニ此疑ナキヲ得
ス氏ノ初メ新聞紙ニ依テ以テ動議スヘレ云々ト曰ヒ
後ニハ氏ノ目的タルサ、バ、ーク、ス、氏ヲ抗撃スルニア
テス却テ之ヲ防護スルニアリト曰ヘリ嗚呼是レ何ノ
言ツヤ蓋シ侵^侵フテ以テ他ノ不意ヲ撃テ之ヲ暗ミノ中
ニ倒スノ意ナルヤ果シテ然ラハ則チサ、バ、ーク、ス、氏
ノ公然相對センコトヲ挑ミシハ亦タ宜ナラスヤ但氏ノ
潔白ノ心此不似ノ抗撃ヲ受クルニ忍ヒサルヘレ予輩
亦タ其感ヲ同フス然リ而シテ其發顯ニ就ケラハ悔ナ
クンバアラス

サ、イ、ド、ワ、ル、ド、リ、ード、氏カ我公使ノ日本ニ對スル政
策ニ関シテ嘔ニスル所ハ事實如何ヲ問ハス甚タ緊要
ノ事タラサルハ各人ノ熟知スル所ナリ米魯國人ハ並

ニ敬愛稱揚セララルハニ我輩ハ條約改正ヲ延ビタリ外
人ニ適用スヘキ至當ハ日本法律ヲ拒ミタリ不正ハ高
業タル阿片ハ販賣ヲ強テ日本ニ施サントテ企テタリ
又外國郵局ヲ鎖サントテ拒ミタリト意旨セララルヤ否
ノ一問ハ惟日本人ノ獨リ甘シテ肯諾スヘキモノトナ
ス如シ此説ノ實否ヲ審議スルニ及ハ、英國公使ハ勿
論日本ニ在留スル諸外國人ハミナ有用ノ証據ヲ呈シ
テ其否ナルヲ徴スヘシリ「ド」氏亦タ能ク此情ヲ熟知
スルニ似タリ故ニ初メヤ日本ニ在留スルノ日日本人
ノ口頭ヨリ得ル所ノ説ナリト曰フニ過キス其本心蓋
シ官ノ注意ヲ提擲セント欲スルモノ、如シ既ニシテ
其軌外ニ出シ重ニ自ラ其説ノ真ナルヲ保シ日本人不
平ノ狀ヲ証スルニ至レリ是ニ於テ「ド」氏ハ誠言

糊説ナリトシテ一概ニ之ヲ拒却シタリ而シテ其一概
ニ拒却スルハ果シテ何ノ点ニカアル蓋シ日本ニ於テ
惹キ起セリト云フ不満足ニ関スルカ將タ此不満足ノ情
ノ由テ起ル所ノ原因タル事實ニ関スルカ若シ此原因
ニ関スルニ於テハ予輩敢テ「ド」氏ト一致スヘシ
允フ日本人ノ胸膈ハ其朝野ヲ論セス目下切ニ恨ヲ積
メルハ更ニ言ヲ俟タス終ニ事理ヲ解スルノ人ハ異口
同音ニ現在ノ情況ハ觀ルニ忍ヒサルモノナリ國際ノ
關係ニ於テ此國ノ保ツ所ノ位置ハ洵ニ愧ツヘキモノ
ニシテ不當ナリト明言スルヲ憚カラス
此事實タル其原因ニ関セス承認スルハ則チ可ナリ蓋
シ此般ノ事情起ラサルヲ得サル原因アルニアラサリ
セハ使節ノ失措ニ歸シ曾テ寛恕スヘカラス○此事實

ハ「サ」リ「ド」氏ノ眼光ニ觸レ氏ノ之ヲ筆述スルニ及
ンテ益明ナルヲ致セシハ亦タ已ニ得サルナリ抑日本
人ハ其隣人ニ比スルニ資性實ニ緩ナリトナサス其怨
ミトスル所實否如何ヲ問ハス煽動者ナクシハアラス
頻年事毎ニ失望スルニ從ツテ自ラ憤懣シ只ニ利己ノ
計ニ眩目ス又從來之ニ接スルニ温言緩語スルヨリハ
寧口脅迫スルモノ多キカ如クナルヲ以テ自ラ之ニ慣
レ令ニ造シテハ他ノ日本ニ對シテ請求スルモノハ私
利ヲ射ルニ外ナラスト信スルニ至レリ
斯ク日本人ノ切ニ恨ム所ハ一人一國ニ限ルテアラス
訂盟スル各國ミナ其同視スル所ナリト云テ以テ或ハ
前説ニ答フルヲ得ヘシ然リ而シテ事實然ルヲ得ズ英
國ト其怨ヲ受クル特ニ多シ是レ一ハ其相關係スル殊

ニ大ナルト一ハ其交際ノ實毎ニ溫柔ナルヲ得サル
較多カリケルトニ由テナリ
之ヲ要スルニ「サ」ハ「リ」ハ「ク」ス氏ハ一舉拒却スル
所ハ蓋シ其官途ニ於テ處理スル事績ヲ擧ゲテ「サ」ハ
「ド」ワ「ル」ド「リ」ド「氏」ノ喋々スル一點ニアルカ如シ即チ
日本ハ無理無法ニ苛處セラレタリト云フ事及ヒ日本
ハ熱心改進黨ヲ謀ルニ敢テ之カ意ニ副ヘサリシト云フ
事ヲ拒メルナリ此日本日新ノ意ニ副ヘサリシ事ニ
係テハ予輩既ニ之カ説ヲナセリ而シテ他ノ一議タル
日本ハ苛處セラレタリト云フ事ニ係テハ今爰ニ辨ス
ルモ竟ニ無用ニ屬スヘシ如レ「サ」ハ「リ」ハ「ク」ス「氏」
ヲシテ往日ノ風ヲ脱スルヲ得セシメ又業既ニ適當ノ
時期ヲ過キタル法式ノ保守者タラス却テ投棄者タル

ヲ得セシムルハ氏ハ日本ノ朝廷ニ駐在スル各國使節中
ノ最モ適當ニシテ最モ仰望スヘキモノタルニ至ルヘ
シ蓋シ氏ノ特ニ日本ノ事情ニ経験アル事氏ノ尤モ日
本ノ幸福ヲ希望スル誠心アル事及ヒ氏ノ日本ノ爲メ
ニ盡セル切勞ノ日本人心ニ感セル事ハ實ニ氏ヲシテ
此名望ヲ博セシムルニ足ル然リ而シテ斯ク一變スル
果シテ得ヘキヤ否